

正しい人の苦しみ

「サタンは【主】の前から出て行き、ヨブの足の裏から頭の頂まで、悪性の腫物で彼を打った。ヨブは土器のかけらを取って自分の身をかき、また灰の中にすわった。」(ヨブ記2:7-8)

人間は神に忠実であっても日々の生活で問題、苦痛、苦難に遭わないという保証はない(→使28:16注)。むしろ主イエスは人生の中で困難や試練が来るのを予期しなければならぬと教えられた(ヨハ16:1-4, 33, →Ⅱテモ3:12注)。聖書には神を敬う人がいろいろな理由からひどく苦しんだ例が非常に多く記録されている。苦しんだ人の中でも有名なのはヨセフ、ダビデ王、ヨブ、預言者エレミヤ、使徒パウロなどである。もちろんだれよりも最大の苦しみを通ったのはイエス・キリストであり、それはすべての人に霊的救いを提供するという神の最高の慈しみを実現するためだった(→イザ53:7, Ⅰペテ3:18)。

苦しみについての疑問と現実

「神が愛ならどうして悪や苦難が続くのか」、「なぜ良い人に悪いことが起こるのか」、「悲劇が起きるとき神はどこにいるのか」、そのほか多くの疑問が出されるけれども、それはみな神の優れた力と慈しみを理解しようとする心の葛藤を表したものである。神が造られた世界に広がっている苦痛と悲惨な状態を見ると、神の特性とは矛盾しているように見える。愛であり全能である神がどうしてこのような悪いことが起こるのを許されるのか理解しにくい。ある人々は悲劇を見て、神は愛であっても全能ではないのではないかと考える。またある人々は罪のない人々や弱い人々が苦しむのを見て、神が全能でありながら罪のない人々を苦しませるのは、神が愛ではないからだと全く逆のことを考える。ところが愛は苦難を帳消しにするものではない。過去の歴史を通して人間はこのような問題と取組んできた。けれども混乱するのは質問が間違っているからかもしれない。人間は神に逆らい自分勝手な道を選んだため罪と悪が世界を握り、物事を逆さまにしてしまった。これは最初神が計画されたことではなかった。こうして神を敬わない世界では無秩序と破壊が「当たり前」のことになったのである。良いことが少しでも存在していること、あるいは苦難の中から良いことが生れるということは、絶えず神に挑み逆らっている世界に対して神が愛を持ち忍耐をしておられる証拠である。

苦しみの理由と源

世だれもが問題にぶつかるのは事実である。人はみな外見も異なるし、行動や考えもそれぞれ違うけれども、苦しみは世界共通の問題である。だれもがとげが刺さった痛さ、心の痛み、病気、災害、試練、悲劇などを知っている。ここでそれぞれの問題の理由を完全に理解することはできないとしても、なぜ神は苦しみを許されるのかという一般的理由を理解しておくことは重要である。多くの人はこの問題が理解できないので神を信じないし、キリストを受入れないようである。なぜ世界に問題があるのかと言って、神を信じているのに直接的あるいは間接的に神に文句を言う人がいる。けれども問題を阻止しないと神を責める人々は、悪の原因、またはなぜ神が苦しみを許されるのかその理由を完全に理解していない。世界に悪がどのようにして入り込んだのか、それはだれのせいであるかを神のことばははっきり書いている。神は人間に選択権を与えられた。けれども人間は神が提供された祝福と自由を悪用した(→創1:26-31, 2:15-22, 3:1-8)。神が最初に造られたものはみな(アダムとエバも)良かった。完全な創造の働きの中で、神は人間に自由意志(選ぶ能力)を与えられた。けれども神が人間を守るために与えられた命令をその自由意志を使って無視したときに、悪が全人類に影響を与える門が開かれてしまった(ロマ5:12)。罪と悪は人間が間違った選択をした当然の結果だった。世界に苦しみをもたらしたのは神の選択ではなく、本当は人間の選択だった。

のである。

「神は悪と苦しみを簡単に取除くことができたはずだ」と多くの人言うかもしれない。けれどももし神がそうされたら、同時に人間の不完全さもみな取除かれ、罪を犯すことなく完全に生きることが要求されるようになる。そして神が人間に与えられた、神に従うか拒むかを決める自由な意思も取除かれることになる。神は人々が神を愛して従うようになることを望んでおられる。キリスト教は、神が強制的に神を選ぶようにさせるとか、人間が選んだことの結果を変えてしまうというようなものではない。むしろキリスト教の信仰は、状況がどんなに難しくても悪いものではなく良いものを自分から進んで絶えず選択できるようにさせようとするものである。神はしばしば困難なところを通るのを許されるけれども、それは人々が成長して、ほかの困難も乗り越える力を求めて神に頼ることを学ぶためである。ヨブは潔白だったと書かれている(ヨブ1:8, 2:3)。それでも神はサタンがヨブの生活に悲劇を起こすのを許された。それは環境がどんなに困難であっても、ヨブの真実の愛と神に依存している姿を明らかにするためだった。

正しい人が苦しむ理由

神を信じる人々が苦しむ理由はいろいろある。

(1) ほかの人々と同じように、神に従う人もアダムとエバが犯した最初の罪の結果としての苦しみを体験する。ふたりが神の命令を通して与えられた導きを意識的に無視すると決めたとき、罪がこの世界に入ってきた。それとともに苦痛、悲しみ、葛藤、そして最終的に死がやってきた。今これらのものは全人類の生活の中に広がっている(創3:16-19)。パウロは「そういうわけで、ちょうどひとりの人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして死が全人類に広がった・・・それというのも全人類が罪を犯したからです」と説明している(→ロマ5:12注)。事実、全宇宙の被造物は罪の恐ろしい結果のもとでうめき、新しい天と新しい地ができるのを待ちこがれていると神のことばは言っている(ロマ8:20-23, Ⅱペテ3:10-13)。

応答 私たちは神の恵みにいつも頼って、罪深い態度や行いを退けることができるし、また退けなければならぬ。希望や答がないように見えるときでも、神の助け、力、慰めによって正しい選択をすることができる(⇒Ⅰコリ10:13)。

(2) 人々は時には自分自身の行動の結果として苦しむ(→「神の摂理」の項 p.110)。「人は種を蒔けば、その刈り取りもすることになります」(ガラ6:7)という原則は一般的な意味でだれにも当てはまる。もし無謀な運転をすれば大変な事故を起こすかも知れない。経済的に愚かな決断をすれば多額の借金を背負うことになるかも知れない。神はそのような苦しみを訓練(自制、克己)の手段として用いて、「平安な義の実を結ぶ」ことを教えてくださる(ヘブ12:3-11, →ヘブ12:5注)。けれども悪いことは必ずしも自分が選んだ直接的結果ということではない。ある人の苦しみは別の人を選んだことの結果(連鎖反応のように)かも知れない。たとえばだれかが酒を飲んで車を運転し事故を起こして人を死亡させたら、その死亡した人は他人の間違った選択によって被害を受けたのである。また抑圧的な政府の高官は人々の自由を奪うかも知れない。世界にある苦しみの多くは人間がよこしまで愚かな選択をした結果である。

応答 私たちは知恵を用い、神のことばの導きに従って神の守りから離そうとするものを避けなければならない。

(3) キリスト者もキリスト者ではない人もみな罪深く腐敗した世界の中で生活しているので苦しむ。罪の影響が私たちを取巻いている。神の天地創造の計画には不幸、個人的危害、災害などは含まれていなかった。したがって苦しみは何か間違っていることを教える警告になっている。そして人間はみな神の助けが必要であることを示している。悪がこんなに多くの人の生活を支配しているのを見ると、神を信じる人々は心を痛め悲しみを覚える(→エズ9:4, 使17:16, Ⅱペテ2:8注)。

応答 私たちは人々の生活の中にある罪の力に対して勝利をし、人々に良い影響を与えることができるように私たちを用いてくださいと信じて祈らなければならない。

(4) 人々は悪魔の働きの結果によって苦しむ。悪魔の第一の標的は神に従う人々である。

(a) 聖書は、サタンが「この世の神」(Ⅱコリ4:4)として、今の世界を支配していることを明らかにしている(→Ⅰヨハ5:19注, →ガラ1:4, ヘブ2:14)。サタンは種々の方法で人々を苦しめる(⇒Ⅰペテ5:8-9)。

ヨブの物語は神の許可によってサタンが激しく苦しめた、神を敬う正しい人を中心に展開している(→ヨブ1:2-)。主イエスは癒された一人の女性がサタンによって18年間縛られていたと証言しておられる(→ルカ13:11, 16)。新約聖書の多くの書物を書いたパウロは自分の肉体のとげ(詳しく書かれていないけれども、肉体的病気が不具合と思われる)は、「私を打つための、サタンの使いです」(Ⅱコリ12:7)と言っている。「この暗やみの世界の支配者たち」(エペ6:12)に対して霊的戦いをする場合、当然戦いは激しくなる。そこで自分を守るために、神は霊的武具(エペ6:10-18, →6:11注)と霊的武器(Ⅱコリ10:3-8)を与えてくださった。応答 私たちは完全な神の武具を身に着けてそれをうい(エペ6:10-18)、勝利に向けて神の力に忠実に頼らなければならない。

(b) サタンとサタンに従う人々はいつも神を信じる人々をあざ笑い迫害してきた。主イエスを愛し、真理の原則と基準に従おうとする人はその信仰のために苦しめられる。実際に信仰のために苦しむことは、しばしばキリストに対する純粋な献身のしるしなのである(→マタ5:10注, Ⅰペテ4:12注)。応答 キリストに従う人はみな主とその基準に従うので批判と反対に遭うはずである。だから信仰に堅く立って、主が最後にはすべてのことを正しく解決してくださると頼り続けなければならない(マタ5:10-11, Ⅰコリ15:58, Ⅰペテ2:23)。

(5) さらに積極的に言えば、キリスト者が苦しむもう一つの理由は「キリストの心」(→Ⅰコリ2:16注)を持つからである。キリスト者になることはキリストに従うこと、キリストに似ることだけではなく、キリストと一つになることでもある。その結果としてキリストに従う人はキリストの苦難をともにする(→Ⅰペテ2:21注)。たとえば、エルサレムの町がキリストの救いを受入れることを拒んだときにキリストが苦しみ悲しまれたように(→ルカ19:41注)、今日のキリスト者も霊的に失われた人間の姿を悲しむべきである。パウロはキリストのための自分の苦しみは、それまでに築いてきた教会に対する日々の心配であるとして(Ⅱコリ11:23-32, →Ⅱコリ11:23注)、「だれかが弱くて、私が弱くない、ということがあるでしょうか。だれかがつまずいていて、私の心が激しく痛まないでおられましょくか」(Ⅱコリ11:29)と言っている。愛して導いている人々の気持を知り、痛みを共有できるようになることが生活の一部にならなければならない(→ロマ12:15)。キリストの苦しみをともにすることは、キリストとともに栄光を受ける機会につながることを覚えるべきである(ロマ8:17)。応答 キリストのために苦しむなら、必要なときにキリストの慰めをいただくことができる(Ⅱコリ1:5)。このことを私たちは感謝しなければならない。

(6) 生活の中の苦しみを、霊的に成長または変化するために神ご自身が用いられることがある。ある人々は神が同情をしてくれないから人間の苦しみがあるとか、人生に試練があるのは神が快適な生活よりほかに重要なものがあると考えておられる証拠と考えている。けれども苦しみや痛みを通さなければ育たない、人生に益となる霊的なものがある。

(a) 神は霊的にさまよっている人々が罪から離れて、神に対する信仰と信頼を新しくするために、苦しみをしばしば用いられる(→士師記)。応答 私たちの中に聖霊が喜ばれないものがあるかを調べ、気付いた罪を神の前で認めなければならない。

(b) 私たちがいつまでも主に忠実であるかどうかを調べるために、神は苦しみをういて信仰を試されることがある。サタンにヨブを苦しめることを神が許されたのはこのためだった(→ヨブ1:6-12, 2:1-6)。ヤコブは直面する困難を「信仰がためされる」ためと言っている(ヤコ1:3, →1:2注)。試みを通して、キリストを信じる人の信仰はさらに強くなり成熟するからである(→申8:3注, Ⅰペテ1:7注)。応答 信仰は、「イエス・キリストの現れのとくに称賛と光栄と栄誉」(Ⅰペテ1:7)を生み出すことを覚えて、困難などにごそ私たちの信仰が強められるようにするべきである。

(c) キリスト者の信仰を強めるためだけではなく、霊的に成長し品性を成熟させるために神は苦しみをういられる。パウロとヤコブによれば、神は苦しみを通して忍耐を学ぶことを願っておられる(ロマ5:3-5, ヤコ1:3)。苦しみを通して自分自身に頼るのではなく、神により一層頼ることを学ぶのである(ロマ5:3注, Ⅱコリ12:9注)。応答 苦しみを通して何を学んでほしいと神が望んでおられるかを感じ取り、それを受入れるべきである。

(d) ほかの苦しんでいる人々を慰め励ますことができるように、神は私たちを困難と痛みの中を通らせると考えられる(→Ⅱコリ1:4注)。このことによって奉仕の働きの効果は深まり増加するようになる(Ⅱコリ4:7-12, →4:11-12注)。応答 私たちは苦痛の体験を用いてほかの人々を励まし強めなければならぬ。

(7) 神は正しい人の苦しみをを用いて神の国を発展させ、人々を神との関係に導き入れる目的を達成される。

(a) たとえば、ヨセフが兄たちのねたみによって体験した不当な出来事はみな神のご計画の一部だった。それをヨセフは「あなたがたのために残りの者をこの地に残し、また、大いなる救いによってあなたがたを生きながらえさせるために」神が働いておられたと説明した(創45:7, →「神の摂理」の項 p.110)。このことの最高の例は、神の救いの計画が成就するために、迫害と苦悶と死を体験された「このきよい、正しい方」(使3:14)であるキリストの苦しみである。このことはキリストを十字架につけた人々の不法(使2:23)を容認するものではなく、罪びとの手によって正しい人が苦しむのを神がどのようにしてご自分の目的と誉れのために用いることができるかを示している。応答 苦しみを通して私たちはほかの人々、特に私たちの苦しみの原因(一部でも)になっている人々にキリストのいのちと愛を伝える方法を探すべきである。

(b) 神はしばしば苦しんでいる人を神に立返らせるために、その苦しみが長引くようにされる。信仰者、未信仰者に関係なく、苦しみは人間の弱さを明らかにする。このことに気が付く人は神が提供しておられる救いと助けに心を開くようになる。また謙遜になって神とほかの人々に対して感謝して生きようになる。神は人々が何もかも理解するようにはではなく、神に頼るようになることを求めておられる。苦しみは最終的に人間には神が必要であることを教えてくれる。そしてこの世界は腐敗していること、そして定められた滅びに向かう道から救われるためにはキリストが必要であることを教えてくれる。応答 苦しむときには(自分でも、ほかの人々でも)助け、救い、平安を神に求めるように励ますべきである(ピリ4:6-7, 1ペテ5:7)。

信仰者の苦しみに対する神のかかわり方

(1) 記憶すべきことは、神が苦しみの中にもおられ働いておられることである。たといサタンが「この世の神」(Ⅱコリ4:4)だとしても、人々を苦しめるのは神が許される範囲だけである(→ヨブ1:-2:, →「神の摂理」の項 p.110, 「神のみこころ」の項 p.1207)。さらに耐えられないような試練に遭わせることはない。神はみことばの中で約束しておられる(Ⅱコリ10:13)。

(2) 神は、神を愛して従う人には苦しみと迫害の中から良い結果を生み出してくださいと約束しておられる(→ロマ8:28注)。ヨセフは自分の苦しみを通してこの真理を確認した(→創50:20)。ヘブル人への手紙の著者もまた人生の中の苦痛に満ちた部分を用いて神がどのように成長させ益を与えてくださるかを示している(→ヘブ12:5注)。耐え忍ぶなら、苦しみは人々を良い方向に変え、人生の中でより良いより強いものを生み出すのである。

(3) 神は苦痛のときにもそばにいて、「死の陰の谷」を通るときにも(詩23:4, →イザ43:2)ともに歩いてくださると約束された。神は聖霊によってこのことをして下さり、あらゆる問題の中で慰めてくださる(→Ⅱコリ1:4注)。そしてご自分の子たちに十分な恵みと力を与えて、人生のあらゆる問題に耐えることができるようにして下さる(Ⅰコリ10:13, →Ⅱコリ12:9注)。

(4) 主イエスは痛みをともにして下さることを忘れてはならない。人間が直面するあらゆる試練と苦痛を体験されて同情して下さる大祭司(父である神との間の仲介者)である方にキリスト者は祈るのである(ヘブ4:15)。この方は罪の誘惑と圧力に負けないで、人々が体験しないような苦しみに遭い耐え忍ばれた。そして全人類の罪の重荷を背負って身代りに死んでくださった。「私たちの病を負い、私たちの痛みをになされた」(イザ53:4)、その忍ばれた苦しみを通して、救いと助けと癒しが与えられる(イザ53:5)。

(→イザ53:12注, ヲカン1:4, ヘブ2:14)。サタンは悪魔の巧みで人々を苦しめる者である。

苦しみを通しての成長

苦しい体験はその人の対応の仕方によって滅びにもなるし祝福にもなる。問題は多くの人になぜ自分は苦しむのかその理由を探ることばかりに時間をかけて、どのように対応したらよいかを考えないところにある。原因ばかり考えていると結局は完全に理解できないので、神に恨みを持つようになる。聖書は絶えず困難や苦しい状況を通して神に近づくことに集中するように教えている。キリスト者は「この問題には神がかかっているのだろうか」と論じてはならない。「私はどのように対応したら、神が願っておられるような人になることができるのか」に集中するべきである。

もし神に頼っているなら、苦難は次のような建設的な目的を果すことになる。(1) 注目をする。(2) 神に力を現していただく(ヨハ9:1-3)。(3) 潔白さ、または最高の品性を試す(ヨブ2:1-3)。(4) 忍耐と品性を生み出す(ロマ5:3-5)。(5) 鍛錬をする(ヘブ12:10, 11)。(6) 高ぶりを取除く(Ⅱコリ12:7)。(7) 成熟させる(ヤコ1:2-4)。(8) 信仰を強める(Ⅰペテ1:3-7)。(9) キリストに近付き、キリストに似るものとなる(ロマ8:28, 29)。(10) ほかの人々に仕え、慰める機会を提供する(Ⅱコリ1:3-6)。(11) 地上のものから永遠のものへ焦点を移す(Ⅱコリ4:17, 18)。(12) 神に逆らう人々を神に立返らせる(Ⅰコリ5:1-5)。(13) より大きな永遠の報いに向けて希望を持ち、それを受け取る機会を提供する。けれども困難に遭ってもこのような目的とは無関係で、地上の生涯では何の答も出ないように見えるときがある。そこでさらに神に頼るなら、永遠の世界でキリストに会うときにさらに大きな誉れを受けることになる。そのとき、「今の時のいろいろの苦しみは、将来私たちに啓示されようとしている栄光に比べれば、取るに足りない」(ロマ8:18)ことが理解できるようになる。

苦しみに対する勝利

苦痛と苦悩の原因である試練を体験するとき、そのような苦しみに対処して勝利するためにはどのような方策を取ったらよいのだろうか。

(1) 人間が苦しむ種々の理由(上記)を考え、その理由が自分にどのように当てはまるかを考えてみる。もし理由がわかったら、その応答の部分に従って行動し、その体験を積極的に生かしたらよい。

(2) 環境がどんなに厳しくても、神が深く愛して見守っておられることを信じる(→ロマ8:36注、Ⅱコリ1:8-10注、ヤコ5:11注、Ⅰペテ5:7注)。状況がどんなに困難でも神の愛を否定したり、神が救い主であり主であること、罪を赦して人生を導いてくださる方であることを否定してはならない。

(3) 心を込めた熱心な祈りをもって神に向かい、神との一層深い関係を求める。そして神がその状況から解放してくださるまで忍耐をもって待望むべきである(→詩27:8-14, 40:1-3, 130:1)。

(4) 最善のときに苦痛から解放してくださるまで困難に耐える力を神が与えてくださることを期待する(Ⅰコリ10:13, Ⅱコリ12:7-10)。「私たちが愛して下さった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となる」(ロマ8:37, →ヨハ16:33)ことをいつも覚えておくべきである。神の最大の誉れと私たちの強い信仰は、苦しみを除いたり苦しみから逃げたりすることによってではなく、人間の弱さを通して働く神の力によって証明されるのである(→Ⅱコリ4:7注)。

(5) 神のことば、特に苦しみのときに慰めを与えてくれる詩篇を読む(詩11:1, 16:1, 23:1, 27:1, 40:1, 46:1, 61:1, 91:1, 121:1, 125:1, 138:1)。

(6) 祈り、聖書、聖霊の導き、神を敬う成熟したキリスト者のカウンセリングなどを求め、それを通して自分の特別な状況について神から知恵と識別力を求める。

(7) もし苦痛が肉体的なものなら「神による癒し」の項(p.1640)に書かれている方策に従うとよい。

(8) 困難や苦しみを通っているとき、主に従う人は苦しみに遭うとキリストが言われたことばを思い出す(ヨハ16:33)。神が「彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださる。もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみもない」(黙21:4)と言っておられるときを熱心に期待をもって待望むとよい。